

* 6 被服地の風あいにおよぼす諸要素について（風あい判定における主観的評価と機械的方法の相関）

奈良女子大学 ○植田 雅子
姫路短大 立石 睦子

風あいは被服地をとり扱う上に相当重要視されているが、ほとんどが経験的判断に依存している。そこで一般に行われている主観的判定、すなわち視覚および手の触感による判定結果をもとに、それを構成していると思われる諸要素を機械的方法により測定しその値との相関をみることによって、風あいにおよぼす諸要素を分析し、風あい判定の客観的基準性を明らかにしようと試みた。

その一部は、関西支部第 11 回例会において発表した。引続き主観的評価の対象を拡大し、一方機械的方法による測定は前回に加えて、含気量・表面摩擦・皺回復の時間効果・伸張弾性・強伸度・摩擦摩耗など計約 20 種の方法について行った。

その結果、前回の他に皺回復、含気量・表面摩擦・圧縮弾性・伸張弾性・伸度・その他に相関を見出すことができた。更に、最も相関の高かった防皺性について皺回復の時間効果を考慮し、検討を加えた結果、湿度 90%、温度 30°C における瞬間回復角に著しい相関をみた。そこで今回はこのような主観的評価の統計的処理と各種の機械的方法による測定値との相関性について、又各要素相互の関連性について報告する。